

平成 30 年度広島県大学図書館協議会事業報告

1. 会議

1. 平成 30 年度総会

日時：7 月 30 日（月）13：30～16：40

会場：山陽女子短期大学 会議室（当番館：山陽女子短期大学図書館）

参加：加盟館 24 機関 37 名 欠席：加盟館 1 機関 1 名

2. 幹事館連絡会議 第 1 回 6 月 7 日

3. 研修企画委員会 第 1 回 6 月 7 日

4. 広島県内図書館連絡会議 2 月 6 日

5. 共同リポジトリ委員会 第 1 回 2 月 8 日

2. 研修会

第 1 回

日時：平成 30 年 9 月 10 日（月）13:00～17:00

会場：広島修道大学 協創館（8 号館）3 階 8302 教室

テーマ：「人の集まるブックイベントの仕掛け・作り方」

第 2 回

日時：平成 30 年 11 月 30 日（金）13:00～17:10

会場：広島大学中央図書館ライブラリーホール

主催：国立大学図書館協会中国四国地区協会

共催：広島県大学図書館協議会

テーマ：「大学図書館のアクセシビリティを考える」

3. 事業

1. 協議会ホームページの運用

ひとめマップの掲載、総会議事録、研修会報告、ビブリオバトル結果。

2. 共同リポジトリ（HARP）の運用

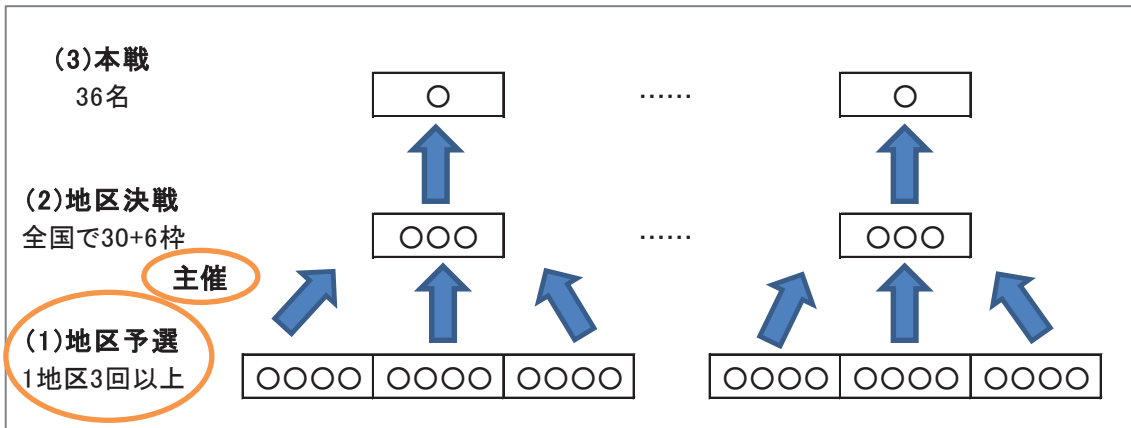
参加機関数 16 機関

3. 「ひとめでわかる広島県大学図書館協議会（通称：ひとめマップ）」の更新

4 月更新照会后、5 月更新。

4. ビブリオバトル広島地区予選・決戦の開催

「全国大学ビブリオバトル 2018～大阪決戦～」に広島県内の大学生・大学院生が参加できるような環境を整えることを目的に協議会事業として(平成 30 年度総会承認)以下の通り実施した。



(1) 地区予選

広島県大学図書館協議会加盟館 6 館が地区予選を主催。地区決戦出場のバトラーを選出。

開催大学	チャンプ本	バトラー	参加者
広島大学	『記憶喪失になったぼくが見た世界』(坪倉優介 著)	4 名	18 名
広島市立大学	『ジブリアニメで哲学する』(小川仁志 著)	4 名	54 名
福山大学	『ナメクジの言い分』(足立則夫 著)	4 名	20 名
広島工業大学	『お伽草子』(太幸治 著)	5 名	20 名
比治山大学	『もういちど生まれる』(朝井リョウ 著)	6 名	44 名
県立広島大学	『注文の多い注文書』(小川洋子 著)	5 名	34 名

(2) 地区決戦

尾道市立大学小川研究室・啓文社連合（中国 A ブロック）、広島県立図書館（中国 B ブロック）が地区決戦を主催。

広島県大学図書館協議会加盟館は共催館として地区予選優勝者のバトラーを派遣し、交通費を支弁した。両ブロックで加盟館（福山市立、県立広島）のバトラーが優勝した。

ブロック	チャンプ本	発表者所属	バトラー	参加者
中国 A	『Good Luck』(アレックス・ロビラ著)	福山市立大学◎	8 名	50 名
中国 B	『注文の多い注文書』(小川洋子 著)	県立広島大学◎	7 名	52 名

※◎は広島県大学図書館協議会 加盟館

(3) 本戦

広島県大学図書館協議会 加盟館（県立広島、福山市立）から地区決戦優勝者のバトラー 2 名を派遣。両バトラーが準グランドチャンプ本、ゲスト特別賞を獲得した。

賞	書名	発表者所属	バトラー	参加者
グランドチャンプ本	『夏と花火と私の死体』(乙一著)	大阪経済大学	36 名	約 800 名
準グランドチャンプ本	『注文の多い注文書』(小川洋子 著)	県立広島大学◎		
ゲスト特別賞	『Good Luck』(アレックス・ロビラ著)	福山市立大学◎		

平成 30 年度広島県大学図書館協議会総会議事録

日時:平成 30 年 7 月 30 日(月) 13:30~16:40

会場:山陽女子短期大学 会議室

参加:加盟館 24 機関 37 名

欠席:加盟館 1 機関 1 名

1. 開会 当番館 山陽女子短期大学

2. 挨拶 石永 正隆 (当番館 山陽女子短期大学図書館長)
寺本 康俊 (代表幹事館 広島大学図書館 館長)

3. 議長選出

慣例により、当番館の石永正隆図書館長を選出した。

4. 報告

議事に入る前に、西日本豪雨災害の犠牲者に対して黙とうをした。

(1) 平成 29 年度事業報告

代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーから、平成 29 年度の事業として総会、各委員会等の開催、研修会等について資料 1・2 に基づき報告があった。

(2) 平成 29 年度研修企画委員会活動報告

研修企画委員長の広島修道大学 富永図書課担当課長から平成 29 年度の活動について資料 3 に基づき報告があった。

(3) 平成 29 年度共同リポジトリ委員会活動報告

共同リポジトリ委員館長の福山市立大学 辻司書から平成 29 年度の活動について資料 4 に基づき報告があった。

(4) 平成 29 年度広島県内図書館連絡会議

広島県内図書館連絡会議委員館の比治山大学 福田図書課長から、平成 29 年 12 月 19 日に広島県立図書館において開催された連絡会議について資料 5 に基づき報告があった。

5. 各館活動報告(各館、3 分以内)

参加機関の代表から、平成 29 年度に取り組んだ教育支援、研究支援、社会貢献、管理運営について資料 6 に基づき報告があった。また平成 30 年 7 月豪雨災害について、被災状況の報告も口頭でなされた。その後次のとおり質疑応答があった。

※冒頭の大学名は、回答大学を指す。

- (1) (広島大学) 警報発令により大学が休講となった際、図書館を開館した経緯について
 - ・ 大学執行部から学生の学習の場として提供して欲しいと要請があったため。
- (2) (広島大学) 開館時間 24 時までの運用方法について
 - ・ 霞図書館では学内者用 IC カードの入館による無人開館を行なっている。書架はアコーディオンカーテンで閉鎖し、閲覧室のみの利用。セキュリティ対応は守衛と防犯カメラで行っている。中央図書館の 24 時まで開館はアルバイトの学生が 3 人体制で行っている。
- (3) (尾道市立大学) 漫画コーナーの選書について
 - ・ 手塚治虫作品や、ワンピース、ゴールドカムイなど、各時代で評価が高いものを中心に収集している。まず 3 巻まで購入して学生の貸出状況を確認している。
- (4) (広島市立大学) 除籍本の有償譲渡の価格設定について
 - ・ 図書館で設定。基本は 100 円だが、除籍本の取得価格に応じて金額を設定している。
- (5) (日本赤十字広島看護大学) 館内検索 PC をタブレットに変更した後の印刷について
 - ・ プリンターを設置していない。学生は USB にデータをダウンロードして利用している。

- (6) (広島工業大学) 論文投稿セミナーの出版社講師について
 - ・EBSCO に依頼。
- (7) (広島国際学院大学) ふきだしカメラについて
 - ・カメラに顔を向けると顔のまわりにふきだしが出るようになっている。ふきだしの中身は大学や図書館に関する内容。
- (8) (広島修道大学) 利用者の中学生以上への拡大について
 - ・鈴峯学園との合併により、大学図書館での調べ学習のため附属中学校の学生を受け入れたことから。

6. 協議

- (1) 平成 29 年度決算書(案)及び監査報告について
 - 代表幹事館の広島大学 上田主査から平成 29 年度の決算(案)について資料 7 に基づき報告があった後、監査館の福山市立大学 辻司書から資料 8 に基づき監査報告があり、原案どおり承認した。
- (2) 平成 30 年度事業計画(案)について
 - 代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーから平成 30 年度の会議予定及び委員会について資料 9 に基づき説明があり、原案どおり承認した。
- (2-1) ビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施(案)について
 - 代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーからビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施について資料 10 に基づき提案があり、原案どおり承認した。
- (3) 広島県大学図書館協議会創立 50 周年記念事業(案)について
 - 代表幹事館の広島大学 郷原図書館部長から広島県大学図書館協議会創立 50 周年記念事業について資料 11 に基づき提案があり、原案どおり承認した。
- (4) 平成 30 年度予算書(案)について
 - 代表幹事館の広島大学 上田主査から平成 30 年度予算書(案)について資料 12 に基づき提案があり、原案どおり承認した。
- (5) 平成 30 年度役員館・委員館の選出について
 - 代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーから役員館・委員館の選出について会則に基づき説明があり、以下のとおり選出した。
- (5-1) 幹事館の選出
 - 幹事館は任期 2 年で今年度が改選の時期。(会則第 8 条) 慣例により選挙によって選出された。投票後は別室で開票。開票立会は、H28-29 幹事館より、(広島大学、広島経済大学、広島修道大学)。選挙の結果、幹事館は(広島大学、広島市立大学、広島経済大学、広島修道大学、広島工業大学、呉工業高等専門学校)が選出された。代表幹事館は幹事館(広島経済大学)の推薦により、広島大学が再任された。(会則第 7 条 2 項)
- (5-2) 幹事館以外の役員館・委員館の選出
 - 監査館は輪番で、(エリザベト音楽大学)(申合わせ事項の 3)。
 - 研修企画委員館は任期 2 年で今年度が改選の時期。(研修企画委員会内規の 6) 役員会の推薦により(広島大学、福山市立大学、広島国際学院大学、広島経済大学、広島修道大学、比治山大学、広島文教女子大学、広島商船高等専門学校)が選出された。(研修企画委員会内規の 3) 委員長館は(広島文教女子大学)が互選で選出された。
 - 共同リポジトリ委員館は、今年度まで任期のため改選なし。
 - 広島県内図書館連絡会議委員館は、昨年度に引き続き(比治山大学、広島文化学園大学、県立広島大学)に推薦があり了承した。(県内図書館連絡会議設置要項第 4 条)
- (6) 次期当番館について
 - 役員館の選出と同様、代表幹事館の広島大学 岡田グループリーダーから、説明があり了承した。
 - 次期総会当番館は、輪番で、(呉工業高等専門学校)。(総会会場順次表)

7. 承合事項

- (1) 貴重図書の管理・取扱いについて(福山大学提出)
 - 福山大学 桑田附属図書館事務長より提出理由の説明と謝辞があった。各館回答内容を参考

にし、質問がある場合は回答館に電話で問い合わせるので対応いただきたい旨依頼があった。

8. 閉会

次期当番館の呉工業高等専門学校 河野志朗 学生課長兼学術情報係長から当番館受託と閉会の挨拶があり、閉会した。

資料

平成 29 年度広島県大学図書館協議会事業報告	資料 1
平成 29 年度広島県大学図書館協議会総会議事録	資料 2
平成 29 年度研修企画委員会活動報告	資料 3
平成 29 年度共同リポジトリ委員会活動報告	資料 4
広島県内図書館連絡会平成 29 年度会議議事録	資料 5
承合事項 平成 29 年度の図書館活動について	資料 6
広島県大学図書館協議会平成 29 年度決算書（案）	資料 7
監査報告書	資料 8
平成 30 年度広島県大学図書館協議会事業計画（案）	資料 9
ビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施について（案）	資料 10
広島県大学図書館協議会創立 50 周年記念事業（案）	資料 11
広島県大学図書館協議会平成 30 年度予算書（案）	資料 12

以 上

平成30年度研修企画委員会活動報告

1. 研修会

第1回

日 時：平成30年9月10日（月）13:30～17:00

会 場：広島修道大学 協創館（8号館）3階 8302教室

テーマ：「人の集まるブックイベントの仕掛け・作り方」

講演1：「街の小さな本屋が仕掛けるブックイベント「ブックオカ」の魅力」

講 師：大井 実氏（福岡ブックスキューブリック店主）

講演2：「本と本・モノ・コト・人を繋げる」

講 師：江藤宏樹氏（広島 T-SITE 広島蔦屋書店）

参 加：17 機関 28 名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2018/09/3001quest.pdf>

第2回

日 時：平成30年11月30日（金）13:00～17:10

会 場：広島大学 中央図書館ライブラリーホール

テ ー マ：「大学図書館のアクセシビリティを考える」

講 演：「大学教育とアクセシビリティ」

講 師：山本 幹雄 氏（広島大学アクセシビリティセンター 准教授）

事例発表：「特別修学支援室と連携して行う、障害のある学生へのサービス」

講 師：栗田とも子（北海道大学附属図書館利用支援課 北図書館担当 係員）

参加：14 機関 30 名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2018/12/3002quest.pdf>

2. 評価と課題

第1回

ブックイベントの仕掛け人であるブックスキューブリック店主の大井実氏と広島 T-SITE 広島蔦屋書店の江藤宏樹氏をお迎えして、人の集まるブックイベントの仕掛け方、作り方についてお話をいただいた。その後、5グループでグループワークを行い、講演の振り返りや図書館で活かそうなことを話し合い、各館で取り組めそうなものについて検討した。

アンケートによると、「展示やイベントについてのアイデアがとても参考になった」、「他館の

状況を共有でき、とても良かった」、「図書館でできそうなことというテーマでも着眼点の違い、とても勉強になった」、「この熱意を自館に持ち帰りたい」などの感想があった。「非常に有意義であった」が約70%、「有意義であった」とあわせると95%となり、好評であった。

その一方で、「講師への質問に回答していただく時間がもっとあれば良かったです」「グループワークがかなり短く感じたのでもっと時間があれば・・・」などの意見があり、講演とグループワークを同時に行う際の時間配分が課題となった。

第2回

アクセシビリティの基本的な考え方や大学図書館でのサービス事例を学ぶとともに、グループワークでの議論を通じて、大学図書館のアクセシビリティを向上させる方法について考えることを目的としたワークショップを開催した。最初に広島大学アクセシビリティセンターの山本先生からアクセシビリティの概念や基本的な考え方について講演していただいた。続いて、北海道大学附属図書館の栗田さんから特別修学支援室と連携して行っているアクセシビリティを向上させる様々な取り組みについて事例発表をしていただいた。その後、グループワークとして、各グループで広島大学中央図書館のアクセシビリティのチェックを行い、全体での情報共有を行った。

アンケートでは、「アクセシビリティの基本的なことを学ぶことができよかった」「アクセシビリティについて、わかりやすく説明してもらい、理解が深まった」「実際に実践された話を聞いて参考になった」「具体的な事例で、図書館だけでなく他部署との連携がいかに重要かを感じた」「実際にチェックシートで現場を確認することで、問題点、課題がよく分かった」「チェックシートを見ながら、自館が出来ていない所がとても多く感じた。持ち帰って見なおしたい」などの意見があった。参加者の満足度は「満足した」が68%、「どちらかという満足した」が32%であり、好評であった。

平成 30 年度共同リポジトリ委員会活動報告

HARP 参加機関数

16 機関

第 1 回委員会・勉強会（拡大）

【日 時】 平成 31 年 2 月 8 日（金）15 時 00 分～17 時 00 分

【会 場】 広島市中区堀川町 5-4 香月堂ビル 3 階ミーティングスペース

【出席者】 15 大学 20 名

【議 事】

1. 報告・協議

(1) 自己紹介と各館のリポジトリに関する近況紹介

(2) HARP サーバ切り替え報告について

(3) メモリ増設案について

(4) 2018 年度執行状況及び 2019 年度予算（案）について

(5) EJ 表示について

2. 勉強会

・ DOI と機関リポジトリ

平成 30 年度第 1 回広島県大学図書館協議会
共同リポジトリ委員会・勉強会 議事要録

日 時 平成 31 年 2 月 8 日 (金) 15 時 00 分～17 時 00 分
会 場 広島市中区堀川町 5-4 香月堂ビル 3 階ミーティングスペース
出席者 15 大学 20 名参加 (拡大委員会とし, HARP 参加館が出席)

議事

1. 報告・協議

(1) 自己紹介と各館のリポジトリに関する近況紹介

出席者は、自己紹介と各館のリポジトリに関する近況紹介を行った。

(2) HARP サーバ切り替え報告について

広島大学 内田より、資料 1, 参考 1・2 のとおり、昨秋、サーバリプレイスを完了したとの報告があった。

(3) メモリ増設案について

広島大学 上田より、参考 3 に基づき、サーバ環境を整えるためメモリの増設が提案され、了承された。メモリの種類及び増設時期については、継続して検討することとした。

(4) 2018 年度執行状況及び 2019 年度予算 (案) について

広島大学 上田より、資料 2・3 に基づき、共同リポジトリ事業費について、2018 年度執行状況の報告及び 2019 年度予算について提案があり、概ね案のとおり了承された。また、メモリ増設検討後、メモリ購入金額を今年度あるいは来年度に支出することとした。

(5) EJ 表示について

広島大学 内田より ISSN 申請とリポジトリ EJ 表示機能について説明があった。2/4 (月)、広島女学院大学より報告があったとおり、国会図書館へ ISSN 申請を行ったが、リポジトリ画面上に ISSN 表示が無いことを理由に申請が認められなかった。現在、Earmas の機能で対応ができないか、(機能を使うとなれば)サーバへの負荷量、費用などについてシステム提供元業者に聞いている。参加者からは、費用のかかることでもあるから HARP 全体としての必要性も踏まえて検討してほしいとの意見があった。今後、かかる費用や効果、必要性を考慮しながら、メーリングリスト等で継続して検討することとした。

2. 勉強会

開催要項に基づき、勉強会が行われた。内容は以下のとおりである。

- ・ DOI と機関リポジトリ (広島大学 上田)

DOI の基礎知識 (役割, 構造, 仕組み) や機関リポジトリでの活用 (引用の際の注意点, 広島大学の事例など) について説明があった。

<参考>

IRDB (JAIRO) データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン

http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/pdf/JaLC_guideline_ver2.0.pdf

以上

広島県内図書館連絡会平成 30 年度会議議事録

1 日 時 平成 31 年 2 月 6 日（水）午後 1 時 59 分～午後 3 時 36 分

2 会 場 広島県立図書館応接室

3 出席者

(1) 委 員

県立広島大学学術情報センター図書館 学術情報係長 廣瀬和美

比治山大学図書館 図書課長 福田房子

広島文化学園大学図書館 係長 弥富純子

広島市立中央図書館 事業課課長補佐 千原真純

はつかいち市民図書館 副館長 藤村泰代

広島県立図書館 調査情報課図書利用係長 今岡亜樹子

(2) 事務局

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ主査 上田大輔

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ主任 山下真佑美

広島県立図書館 事業課長 正井さゆり（広島県公共図書館協会事務局次長）

広島県立図書館 事業課主査 佐々木千秋

4 議 題

(1) 広島県内大学図書館及び広島県内公共図書館等の連携について

ア 広島県公共図書館協会事務局次長（以下、事務局次長）が、広島県公共図書館協会加入館を対象に行った「広島県内大学図書館等との連携について」の事前アンケートの結果について説明した。昨年度は分館からの回答もあったが、今回は中央館の回答のみであるため、数字を単純に比較することはできないことを補足説明した。（資料 1 参照。）

(ア) 大学図書館との連携について「該当あり」とした館は 9 館、「該当なし」とした館は 16 館であった。

(イ) 平成 29 年度に大学図書館と相互貸借を行った「館数」は貸出が 4 館、借受が 7 館で、「件数」は貸出 328 件、借受 213 件であった。

(ウ) 貸出し返却窓口の設置は、相互利用は 1 館、「その他」が 2 館で、広島市では、広島市立大学図書館窓口で広島市立図書館資料の返却の受付を行っているほか、東広島市では、広島大学中央図書館及び広島国際大学（東広島キャンパス）図書館窓口で東広島市立図書館の資料の受取りや返却の受付を行っている。

(エ) 職員研修は、広島市が大学図書館と研修を行っている。

(オ) 展示は、「共通のテーマによる展示」を実施した館が 2 館、「展示資料の貸出し（相互交換）」を行った館が 1 館、「その他」が 3 館であった。

- (カ) 「その他行事」について、実施していると回答のあった館は2館であった。福山市の「福山市図書館大賞」は、福山市図書館と福山市立大学附属図書館の司書100人が「2017年のおすすめ小説」を選び、その中からノミネート作品として選出した10冊を、図書館利用者（その本を借りた人）に投票してもらい、大賞作品を決定した。広島市立図書館が中心となって「2018 Hiroshima Active Library 協働事業」と題し、広島市内の大学図書館、県立図書館とで「スポーツ」を共通のテーマにして、イベント等を実施した。
- (キ) 参考として、次回連絡会で協議したいテーマについて回答があったものをアンケートの最後に掲載した。
- イ 委員からは、次のような意見があった。
- (ア) 利用者に「大学図書館に直接行ってみられては」と案内することはあるのか。（広島文化学園大学）
- (イ) 日常的にある。大学図書館のホームページで学外者も利用可能と分かれば、直接利用できることを案内している。大学側が学外者の利用を歓迎しているかどうかは分からないが。（広島市立中央）
- (ウ) 来館して利用登録をしていただければ利用可能。ただ、利用可能な対象者を定めていないのが課題。（広島文化学園大学）
- (エ) 県立なので、県内在住もしくは通勤・通学者が対象。設置者が自治体の場合は、対象者を定めやすい。（県立広島大学）
- (オ) 当館は学外の方に貸出しをしない。（比治山大学）
- (カ) インターネット予約貸出しの受取館として多くの大学図書館に協力していただいている。ホームページにもサービスの案内を掲載して下さっている大学図書館もある。相互貸借について、県内公共図書館から、大学図書館の資料をどのようにして借りたらよいかと質問されることがある。（県立）
- (キ) 広島都市学園大学との連携では、大学がお薦めする本の展示等で大学図書館が関わっている。大学図書館の蔵書を知る機会となり、選書の参考になる。（広島市立中央）
- (2) 障害者サービスの実施状況について
- ア 公共図書館の障害者サービスの実施状況の事前調査の回答について、公共図書館協会事務局から説明を行った。また、大学図書館の障害者サービスの実施状況の事前調査の回答について確認した。（資料2及び資料4参照。）
- イ 委員からは、次のような発言があった。
- (ア) アクセシビリティの向上について研修を行ったが、ソフト面（サービス）の取組みはこれからである。（広島大学）
- (イ) 公共図書館のサービス内容は参考になる。学生が個人的に直接利用する以外に、大学図書館として利用できるサービスがあるか。（県立広島大学）

- (ウ) サピエ図書館に加入しており、ダウンロードした資料を相互貸借で貸出しできる。検索は、加入館でなくても可能。(県立)
 - (エ) 当館もサピエ図書館に加入している。デジタイズ資料も所蔵あり。(広島市立中央)
 - (オ) 車椅子の学生が在籍した時は、学内に組織を作って、学生ボランティアの協力で対応した。オープンキャンパスで見学に来ているようだが、エレベーターが無いといった条件等で入学を断念している事例もあるかもしれない。(比治山大学)
 - (カ) 視覚障害のある学生が在籍した時は、委員会を立ち上げて、施設のバリアフリー化、専門職員によるテキストの点訳を行った。学生のニーズのあるキャンパスから対応している状況。(広島文化学園大学)
 - (キ) 障害者サービスの対象者を拡大した折に、市内の関連施設に広報した。特別支援学校の生徒を対象におはなし会を年2回実施している。当事者の意見により、トイレの改修、サインの位置の変更に取り組んだ。図書館は障害のある方が一人で行きやすい施設でありたい。(はつかいち市民)
 - (ク) 県内市町立図書館からのサピエの申込みはまだ1館のみである。当館で行う対面朗読も利用者が少ない。大学図書館では公共図書館よりも電子書籍導入が進んでいるが、音声読上げに対応した電子書籍があれば知りたい。(県立)
 - (ケ) 公共図書館向けの電子書籍は音声読上げに対応しているが、大学図書館向けの学術系の電子書籍はユーザーが限られるので音声読上げに対応したものが少ない。(県立広島大学)
 - (コ) アクセシビリティセンターで紙資料をOCRで読み込んで、拡大や音声化している。著作権法の改正で、センターも許諾なしで複製が可能である。(広島大学)
 - (ク) 「支援が必要な学生」又は「障害がある学生」がいるという情報が図書館に届かない。(県立広島大学)
 - (シ) 障害者サービスの研修で、当事者より周りの人に、図書館で障害者サービスを行っているという情報を広めることが効果的だという話があった。(県立)
- (3) 大学図書館における学生の利用状況及び利用促進の取組み
- ア 大学図書館協議会事務局から、大学図書館は学習する場所であり、グループ学習での利用が多いこと、利用促進として、ブックハンティングや資料展示、ビブリオバトル等を実施しているとの説明があった。(資料4参照。)
 - イ 委員からは、次のような発言があった。
 - (ア) 学習空間の提供という考え方にシフトしている。また、サードプレイス(学生の居場所)として、図書館の入口に飲食可能エリアを作った。(県立広島大学)
 - (イ) 来館する学生が増加している。貸出しは学生は横ばい、教員は下降している。貸出し用のパソコンの利用が多い。今の学生はよく学習する。(比治山大学)

- (ウ) アクティブラーニングが主となり、課題はデータで提出、発表はパワーポイントを利用するので、図書館の貸出し用パソコン 20 台がよく利用される。(広島文化学園大学)
 - (エ) 来館者は減っている。閲覧席も少ない。今の学生は図書館を使い慣れているので、社会人になって公共図書館を利用してくれるのではないかと期待している。(はつかいち市民)
 - (オ) 学生は学習の場としての図書館は利用しているが、必ずしも図書を利用しているわけではない。本が好きな学生は公共図書館を利用しており、使い分けている。(県立島大学)
 - (カ) ビブリオバトルではどのような内容の本が紹介されているか。(広島市立中央)
 - (キ) 様々である。ビブリオバトルをプレゼンテーションととらえているので、読み物以外にも扱われている。(県立広島大学)
 - (ク) 図書館を授業で使ってもらうと、学生が図書館の資料に興味を持って来館するようになった。図書館の入口も親しみやすく飾り、学習スペースも用意していることが来館増加の理由かもしれない。(比治山大学)
 - (ケ) 公共図書館では、静寂を求める利用者もいる。県立広島大学のゾーニングはどのようにされているのか。(県立)
 - (コ) 1階から4階に上がるにつれてだんだん静かにしようとしている。サイレントルームもある。(県立広島大学)
 - (サ) 一人用のキャレルの利用も多い。大学で学生が一人で過ごす居場所は図書館である。(広島文化学園大学)
- (4) 広島県内大学図書館の一覧について
- ア 広島県内の大学図書館の一覧を県立図書館のホームページに掲載することについて、公共図書館事務局から説明した。(資料3参照。)
 - イ 広島県内公共図書館の一覧のように、大学の各キャンパスの図書館も掲載し、大学図書館協議会が毎年度更新している「ひとめマップ」(毎年URLが変わる)にもリンクを貼ることとし、素案を県立図書館で作成して、大学図書館協議会に諮ることとする。
- (5) その他
- ア 県立図書館から、来いぶらりネットの横断検索について、図書館システムのプロトコルによっては接続が有償になることが判明し、大学図書館の加入促進を保留している状況であることを説明した。
 - イ 大学図書館への相互貸借については、来いぶらりネットに申込み方法の案内等を掲載してはどうか、との提案があった。